

日本映画放送株式会社 第57回番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成29年5月16日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正

放送事業者側出席者：代表取締役社長	杉田 成道
編成制作部	小川 英洋
編成制作部	樋渡 典英
編成制作部	藤井 理子
広報宣伝部長	澤 尚志
番審担当	堤 靖芳
	清水 明(記)

4. 議題（1）審議事項
時代劇専門チャンネル新企画『時専 S40』およびアニメ「鬼平」について
（2）報告事項
日本映画専門チャンネル「特集 役者・仲代達矢」について

5. 議題（1）概要

時代劇専門チャンネルは視聴世代拡大のため、4月1日より平日深夜1時に時代劇とサブカルチャーがクロスオーバーする新企画枠「時専 S40」を設け、40～50代の視聴者に向けた新編成を開始した。月曜から木曜はアニメ作品をラインナップする「時代劇アニメ100年祭」、金曜は「時代劇特撮王国」を放送している。企画のスタートにあたり、プレ企画として、細川徹と時代劇専門チャンネルが放つ非本格派時代劇「小河ドラマ 織田信長」と、アニメ「鬼平」の完全放送を実施した。アニメ「鬼平」は『この世界の片隅に』の丸山正雄がプロデュースし、監督・キャラクターデザインは宮繁之が担当するなど、アニメ界の大御所スタッフが携わり、Amazonビデオで世界配信している。

【審議 POINT】

- 昭和40年以降生まれに視聴ターゲットを絞った新企画をどう評価しますか。
- アニメ「鬼平」をご覧になり、作品の評価・感想をお聞かせください。

6. 議題(1)審議内容

- ・「鬼平」には非常に感動した。見だしたら止められず、2度も見てしまった。素晴らしい。夕方から夜への変化やダークトーンで統一された色使いが絶妙。キャラクターデザインも性格がきちんと表現され、実写ではできない縦横無尽に動くカメラアングルやカット割りもよかった。江戸の町の世界観が確立していた。権力の側を描く「鬼平犯科帳」は個人的には好きになれないのだが、このアニメには感服した。シニアが見てもおもしろいはずで、新しい時代劇アニメの地平を拓いた作品だ。
- ・アニメの映像、技術は確かに素晴らしい。池波作品ならではの人情物語にもやはり唸った。数多くあるアニメ作品の中にあれば、「鬼平」は珍しがられ、光るだろう。しかし、時代劇専門チャンネルの元々時代劇好きな視聴者がこのアニメに注目するか、あるいは未契約者がこの作品を目的に加入するか、と考えると疑問。潜在的なファンが時代劇に目覚めるきっかけになってくれる可能性を感じはしたが。
- ・時代の流れで時代劇専門チャンネルがアニメ枠を設けるのは納得できる。しかし、実写で不可能な表現ができるのがアニメの真骨頂なのだが、最近のアニメは実写的過ぎてアニメ本来の良さが消えている。「鬼平」もしかり。とはいえ、こうした意欲は評価するし、今後もっと研究を進めて、新しい時代劇アニメに期待したい。
- ・「時専 S40」のターゲットに、作品が本当に合致しているのか。50代なら実写時代劇を見てほしい、とストレートに訴えた方がよい。一方、現在実写時代劇は減っているが、コミック界では時代ものがたくさんあり、アニメ化は成功モデル。時代劇アニメの制作・編成自体には期待が持てるだろう。
- ・アニメは気楽に流して見られればよいと思っている。「鬼平」はシリアス過ぎるし、展開が速過ぎて、シニア世代には台詞も聞き取りにくく、映像も見にくい。時代劇専門チャンネルが時代劇アニメをつくるのは、安直な逃げとしか思えない。
- ・「鬼平」は実写のイメージが強く、つい比較してしまう。だが、実写作品にあった粋が、残念ながらアニメから伝わってこない。殺陣も新鮮というよりむしろ違和感が残る。鬼平の顔も若すぎて重厚感や壮年男性の精悍さがなく。とはいえ、時代劇になじみのない若い世代に、親近感のある表現で興味を持ってもらう取り組み自体はよいと思う。
- ・シニア世代の視聴率が下がる深夜帯に、他の世代に向けたコンテンツを探るとするのはよい試みだと思うが、このラインナップで実際誰が視聴するのか疑問。「鬼平」はテンポがよいし、Amazonビデオで世界配信したというのは、新たな時代劇ファンを獲得する上で優れた戦略だと思う。
- ・「時専 S40」は新しい試みとしてはよいが、編成作品に方向性が見えず、もっと議論が必要だと思う。「鬼平」については、実写とアニメは別物なので、実写と比較したり、同じ論理でアニメを語っても意味がない。同じ原作でもメディアによって需要層は違うものだ。「鬼平」はアニメ作品として映像的によくできた作品だと思うし、チャレンジとしてもよかった。ただ、あのキャラクター造形が何を狙って決定したのかが気になった。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・昭和40年あたりに生まれた世代がオタク文化を支えていることも考慮し、「時専 S40」を企画した。「鬼平」は、アニメが実写時代劇を見る入り口になればとの願いで制作委員会に参加した。海外配信や物販を前提とした総合的な検討の結果できたキャラクターデザインだったが、想定通り発表直後から従来の時代劇ファンからの反発が大きかった。特にネットで宇多田ヒカルの反対意見が広く拡散されたが、大きなバズにつながって却ってよかったと思っている。地上波視聴率は、同じ時間帯に放送されていたヒット作「弱虫ペダル」と並ぶ素晴らしい結果だった。
- ・今回新設した深夜枠は、時代劇専門チャンネルの試行錯誤の場であって、云わばチャレンジ枠。ラインナップは確かに統一性がないが、これまでの編成や視聴層を改革したいという情熱があればよしとした。ここから新しい波が生まれることを期待している。

7. 議題(2) 報告事項

6月に主演映画『海辺のリア』が公開される俳優 仲代達矢。2月～6月の5ヶ月間、毎月切り口を変えて仲代の出演作とオリジナル番組「仲代達矢の日本映画遺産」を放送している。オリジナル番組では撮りおろしのインタビューで放送予定映画の撮影秘話を披露してもらい、映画を深く楽しめるよう構成した。また、仲代の最新主演作の公開に合わせ、主演代表作である黒澤明監督の名画『影武者』の[4Kデジタルリマスター版]を日劇で上映するイベントを催し、その模様も番組として放送予定である。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成29年7月25日(火)15時より開催。